

今年度、館林商工高等学校は、コミュニティ・スクールとなりました。
コミュニティ・スクールは、「学校運営協議会」が設置されている学校です。この「学校運営協議会」は、これまでの「学校評議員会」からの移行・発展した形態となります。

コミュニティ・スクール・学校運営協議会の概要は次のようになります。

1 学校運営協議会の主な3つの機能

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる。
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。（※個人に関するものではなく、学校や地域のニーズや課題から、このような資質・能力を有する教職員の任用が必要であるという意見を述べる。）

2 コミュニティ・スクールのメリット

(1) 組織的・継続的な体制の構築＝ 持続可能性

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」である。

(2) 当事者意識・役割分担＝ 社会総掛かり

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識をもち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができる。

(3) 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

学校運営協議会や熟議の場を通して、子供たちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できる。



子供 にとっての 魅力	<ol style="list-style-type: none"> ① 子供たちの学びや体験活動が充実する。 ② 自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。 ③ 地域の担い手としての自覚が高まる。 ④ 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。
教職員 にとっての 魅力	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となる。 ② 地域人材を活用した教育活動が充実する。 ③ 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できる。
保護者 にとっての 魅力	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれる。 ② 地域の中で子供たちが育てられているという安心感がある。 ③ 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる。
地域の人々 にとっての 魅力	<ol style="list-style-type: none"> ① 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。 ② 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなる。 ③ 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながる。 ④ 地域の防犯・防災体制等の構築ができる。

3 コミュニティ・スクールの在り方

(1) 高等学校において広く地域や社会の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながり、キャリア教育の推進や学校の魅力化、特色づくりに資するものである。

(2) これまで培われた地域や社会との関係を生かして、学校運営協議会を通じ、地域住民や近隣の大学の教員、地元の商店街、企業、NPO等の団体、地方公共団体等の協力を得ることが期待される。

- (3) 地域の差し迫った課題を、高校生自らが地域と協働して解決していく地域課題解決型学習を実施するなど、高等学校と地域の双方向的な魅力を発信することも期待される。
- (4) 自治体、地元産業界等との連携を強化することで、地域人材の育成・還流を図る仕組みを構築することが期待される。

4 地域学校協働の取組例

- (1) 地域と連携した教育活動（キャリア教育と探究学習）
 - (2) 企業、大学との連携による専門教育への取組
 - (3) 地域人材の育成
 - (4) 地域に根ざした学校づくり（生徒流出という課題解決に向けた取組）
 - (5) 高校生のアイデアを元にした地元の商品開発
- ☆館林商工高等学校では、上記(1)(5)については、既に多くの実績があり、(2)も行っています。

第1回 学校運営協議会

7月22日（月）に開催されました。
下記の通り、会長1名、副会長3名が決定され、委員7名の計11名の組織構成となっております。

会長：大学教授
副会長：民間企業総務部長・商工会議所専務理事・商工会会長
委員：地元区長・近隣中学校校長2名・役場係長・同窓会長・PTA会長・元県立高等学校長

校長、教頭に加え、県教育委員会から3名がオブザーバーとして出席しました。
主な内容は下記のとおりです。

- 1 学校運営基本方針承認
校長より「地域と産業を担う人材を育成する」を中心として、教育方針が示され、承認されました。
- 2 学校概要説明
教頭より、分掌・商業科・工業科・資格取得状況・主な就職先と進学先・生徒の主な活動・学校評価一覧表等の説明がありました。
- 3 意見交換
最終的に、以下3つの内容の検討を深めるための第1段階として、意見交換が行われました。

- ① 本校生徒及び教職員に期待することや要望について
- ② 魅力ある学校づくりのために取り組むべきことについて
- ③ 地域社会から期待される教育活動の在り方や生徒像について



- (1) 提案・参考事例等（抜粋記載）
 - ・企業として、鉄道会社や市役所と連携したイベントや工場フェスタを行っているが、そこで館商工生も一緒に活動できると良い。
 - ・商品開発を進める過程を通じて、人材育成やマーケティング等を学ぶ機会ともなる。
 - ・商工生の活動をマスコミにPRできると良い。
 - ・企業と直接的な接点を持つことで、生徒が興味関心を持つと良い。そのような接点を持てるように力を合わせる。
 - ・中学校だけではなく、小学校にも関わると良い。
 - ・生徒が作成したものを中学校に展示するのも、館商工理解の一つの方法である。
 - ・生徒は、近いのに、館商工のこと理解していない。中学校への出前授業を積極的に行った方が良い。
 - ・子供たちの中では、館商工のうわさは上がっている。SNSやメディアの発信があると良い。
 - ・社会から望まれることや中学生が望むことを、館商工が認知すると良い。
 - ・企業で必要な人材を育てる必要がある。考えられる人材育成のためにもコラボ商品開発は良い。やる気を伸ばすことや一緒に取り組む姿勢も育むことができる。
 - ・工場見学的时间があると、作業の流れなどの仕事理解につながる。
 - ・以前のような文系理系の枠がなくなってきたように、商業科と工業科が連携する必要がある。
 - ・大学に来ている館商工の多くの生徒は、仲間と話をするのが得意である。これは大切なことである。いろいろな場面で活用できるのではないか。
 - ・指導にあっては先生にも企業を見てもらおう機会を持つのも良い。
 - ・G I A（群馬イノベーション・アワード）に出て、それにより大学に進学するなどの実績を創れると良い宣伝となる。
- (2) 要望・意見等（抜粋記載）
 - ・商工生を欲しい企業がたくさんある。専門学校に進学すると、その企業に入れない。即戦力となる生徒を社会に出してもらいたい。
 - ・明和町には良い企業があるが、就職者が少ない。地元企業にも目を向けてもらいたい。
 - ・地元企業の魅力を伝えていただきたい。
 - ・明和まつりや産業祭に参加する機会を多く作って、地元の魅力を認識させていただきたい。
 - ・ある程度の年になったら、地元に戻るような教育が必要である。ふるさとの魅力を認識できる教育をして欲しい。